

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

### 学校名【常滑市立青海中学校】

1 実践テーマ	【 I, III, V 】
2 実施対象者	全校生徒230名, 職員24名, 来賓・保護者20名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 保健体育 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( 講演会 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>オリンピック・パラリンピックに関わる方の話を聞くことで、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、スポーツを楽しむ心を育成する。</p> <p>パラリンピック競技を実際に体験することで、障がい者スポーツへの理解を深め、共生社会の構築に向けての精神を学ぶ。</p>
5 取組内容	<p>【オリンピック・パラリンピック講演会】</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるために、事前に各学級でオリンピック・パラリンピックに関するクイズを行った。東京オリンピック・パラリンピックを来年に控えているとはいえ、生徒は知らなかったことの方が多く、「へえ、そうだったんだ」という声が聞かれた。</p> <p>(2) 講演会</p> <p>12月5日(木)に、流通経済大学助教  <small>たやまひろかつ</small>          の田山寛豪氏をお招きし、オリンピック・パラリンピック講演会を開催した。田山氏は、トライアスロン日本代表選手として、アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロのオリンピック4大会に連続出場し、現在は流通経済大学トライアスロン部監督を務め、後進の育成に努めている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="884 1310 1372 1489"> <p>Q12・13 パラリンピック種目となっている、次の写真の種目名を答えなさい。</p>  <p>( ) ( )</p> </div> <div data-bbox="884 1512 1372 1713"> <p>Q14 東京オリンピック・パラリンピックのキャラクターの名前を答えましょう。</p>  <p>君は何問答えられたかな？</p> <p>左 ( )</p> <p>右 ( )</p> </div> </div> <div data-bbox="1082 1792 1364 2128">  </div>

講演会では、田山氏がトライアスロンを始めたきっかけや、何度も挫折したこと、オリンピックや世界選手権に出場したときのエピソード等を、ユーモアを交えながら生徒に分かりやすく話された。そして、「夢や目標があれば、うまくいかないことも必ず乗り越えられる。あきらめずに何度も挑戦してほしい」と力強く語られた。その上で、「『試練は乗り越えられるからこそ、与えられる』『ありがとう』という言葉が自分の心を支えてきた。みんなも自分を支える言葉を見つけてほしい」と生徒に呼びかけて、締めくくられた。さらに、生徒から多数の質問があり、「挫折したときに、どのように乗り越えてきましたか」という質問には、「挫折は何度もあります。あきらめないことが大事です」と、真摯に答えてくださった。



### (3) 事後学習

講演会の感動をそのままに、教室に戻って振り返りの学習を行った。どの学級においても、田山さんの生き方に感銘を受け、生徒が講演会を振り返って、真剣に感想を書く姿が見られた。

### 【パラリンピック種目の体験（保健体育科）】

生徒が、パラリンピックをできるだけ身近に感じ、その意義を学ぶために、保健体育科の授業で、ボッチャやシッティングバレーを実施した。以下に、簡単な単元の構想を示す。

#### 〈単元の構想〉

- ① スポーツの文化的な意義・スポーツ大会の文化的な役割について考える。(主にオリンピック)
- ② 人々を結び付ける、スポーツの文化的な働きについて話し合う。(主にパラリンピック)
- ③ ①・②を踏まえ、興味のあるパラリンピック種目について個人で調べる。
- ④ 個人で調べた内容について、グループで発表し合う。
  - ・障がいをもつ人が競技を行うことのできる工夫について
  - ・スポーツとして優れている点について
- ⑤ ボッチャを行い、障がいをもつ人がプレーを楽しむことができるように、工夫されている点を話し合う。
- ⑥ シッティングバレーを行い、障がいをもつ人がプレーを楽しむことができるように、工夫されている点を話し合う。
- ⑦ ボッチャやシッティングバレーを振り返って、ルールや実施方法を工夫し、新しい種目を考える。



〈ボッチャ〉



〈シットイングバレー〉

6 主な成果

【オリンピック・パラリンピック講演会】

生徒の感想からは、田山さんの話を自分のことに置き換えて現在の自分を見つめ直す内容や、「自分を変えてくれる言葉」の大切さについて考える内容が多く見られた。今回の講演会を通して、生徒がオリンピック・パラリンピックという世界的な大会や、トライアスロンという過酷な競技に、改めて興味・関心をもつようになっただけでなく、現在やこれからの自分の生き方について見つめ直したり考えたりする、とても大切な機会となった。

〈生徒の感想より〉

講演会を聞いた感想や、初めて知ったこと、今後に生かしたいことなどを書きましょう。

田山さんの話を聞いて、大会などで結果を出すためにはただ練習をこなすだけではなく自分で夢や目標を決めて夢や目標に向けてこれ以上やったのだからと自分で思えるように準備が大切だということがとても分かりました。また、自分を変えてくれる言葉を自分で見つけてみました。これから受験があるので田山さんがおっしゃっていた、「イメージ」を大切にしていきたいです。今回の講演会は自分のためになる話ばかりで勉強になりました。

【パラリンピック種目の体験（保健体育科）】

体育理論の単元で、スポーツがもつ文化的な意義を学習することで、スポーツには人々を結び付けたり、お互いを理解したりする力があることに気付くことができた。また、ボッチャやシットイングバレー等のパラリンピック種目を実際に体験することで、国籍や性別、年齢や障がいを超えて、スポーツは人々を結び付ける力があることを体感できた。さらに、種目のルールや道具を工夫することで、多様な目的に合わせたスポーツを行うことができることを理解し、自分たちの生涯スポーツにもつながっていることを学ぶことができた。

	<p style="text-align: center;">〈生徒の感想より〉</p> <p>① ボッチャについて (気付いたこと・競技の特性・スポーツの文化的意義・魅力や楽しさ)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>手や足などが不自由でも、ボールを動かす(転がす・投げる)とさえできれば誰もが楽しく行えるスポーツ。</p> <p>実際にやってみると、手足が不自由でない私たちでも難しく、障がいの有無に関係なく楽しめる競技だと気づけた。</p> <p>投げることができない人は幼児の「ボールリ」みたいに、おハリ台のようなものを使ってフレーでできることなど、障がいが高くても道具を使ってフェアに試合できるのはボッチャの魅力だと思う。</p> </div>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トライアスロンの国際大会が、毎年開催されている地域性を生かして、生徒にとって身近な競技に関わっている講師を招聘した。</li> <li>・事前・事後学習を行うことで、全校集会で行ったオリンピック・パラリンピック講演会を、生徒の心に残る、より充実した時間にするように工夫にした。</li> <li>・校内の事業とせず、青海中学校区の保護者にも案内を配付し、希望者に参観していただくようにした。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月にオリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されたため、年度途中で年間行事や教育課程に組み込むことが困難だった。</li> <li>・常滑市教育委員会に相談したところ、講師をしていただく方が見つかったが、繋がりがなかった場合は、講師を見付けることが難しかったと考えられる。</li> <li>・講演会に関しては、生徒にとって貴重な経験となったが、継続した教育活動を行うことができなかった。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科でここ数年取り組んでいる、シットイングバレー等のパラリンピック種目の実施を継続して行う。</li> <li>・道徳科において、オリンピック・パラリンピックに関連する教材を使用し、オリンピック・パラリンピックに参加する意義やフェアプレー精神等について学ぶ機会を設定する。</li> <li>・各教科において、オリンピック・パラリンピックに関連する学習内容を、教科横断的に扱っていく。</li> <li>・オリンピック・パラリンピック関係の資料を、定期的に掲示したり更新したりすることで、生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を喚起する。</li> </ul>